

トマ喰い虫 第五号



(作詞/河野正義、補作/相馬正男、「トマ喰いうなぎ」。ペラウの人たちの「うなぎの歌」の替え歌。歌に合わせたユーモラスな「うなぎ踊り」がある)



種子はまかれた 殻を破って 新しい闘いのうねりを創り出す

アメリカ国防総省は六月二十七日、核トマホークの実戦配備が既に数日前から始まっていることを公式発表した。六月十四日にトマホーク能力をもつ攻撃型原潜タニが六月になって初めて横須賀に入港したが、そのとき米海軍は、核トマホーク配備は六月二十一日以降に開始すると説明した。これらの発表は、繰り返し説明されて来た「六月配備は予定通り進んでいる」というこれまでの見解とも一致する。

いよいよ、核トマホーク実戦配備が開始されたと見なければならぬ。六月二十七日の発表によると、とありあえず核トマホークが装備されたのは四隻の潜水艦である。私たちは如何にして、これ以上の配備と日本寄港を止めることができるのだろうか。この問いに私たち一人一人が向かい合わなければならぬ。誰かが回答を出してくれるわけではない。

六月十七日、午後一時四〇分ごろ、反核ジャズの佐藤修さんのグループの演奏に迎えられてキャラバン隊がヨコスカに到着した。すでに会場は五千人を越す人々でギッシリと埋まった。主催者の予想をはるかに上まわる数だ。

この日、午前十時ごろからヨコスカ臨海公園では集会の準備が開始された。二台のトラックを合わせたステージ。寿町の労働者が努力してくれた仮設のテント、それに音楽用アンプや電源が持ち込まれた。労働者の前段集会在、これまた主催者の予想以上の参加者で開始され、午後一時には全体集会在

保一横須賀を結ぶ反核キャラバン、ヨコスカを反トマホークの声で埋めつくせ！6・17全国集会、数々のハンストや坐り込み…。行動を始めた人々は誰もが確かな手応えを感じた。横須賀集会在も熱気に溢れたものであった。闘いの種は間違いないとまかれたと言えらるだろう。しかしオランダの民衆がNATO決議にもかかわらず巡航ミサイル配備決定を延期させた事態と比較すれば、日本の運動はまだまだ弱く小さい。

日本政府と対決する具体的な攻撃の種は間違いないとまかれたと言えらるだろう。しかしオランダの民衆がNATO決議にもかかわらず巡航ミサイル配備決定を延期させた事態と比較すれば、日本の運動はまだまだ弱く小さい。

防を設定しなければならぬ。闘いのシンボルとして多くの人々の目に触れる闘いが創り出される必要がある。一人一人が自分の場になし得て全体として一つの大きな力になるような運動も必要だ。真剣な討論を起こそう。京都の小原直樹君が言ったように「あきらめは最大の敵だ」。

6・17ヨコスカに五、〇〇〇人が… 「全国のトマ喰い虫は、新しい闘いへ出発」



■6.17ヨコスカのデモ。ダイ・インの吉田さんを機動隊が強制排除する。吉田さんはしなやかに静かに、しかし強く意志を貫いた。

真珠をひとつひとつ

つなく針

吉田満智子さん

■キャラバンを始めるとき、こんなに出来るとは思わなかった。反響の大きさも予想以上だし、自分の体力も十日が限度だと思っていた。十日間で死んでも本望だという気持ちだった。

多くの人々に出会った。決して思いついたようなことではなく、自分の訴えが相手突き動かしたという感じが残っている。責任を感じている。今後、その人たちの心とどうつながっていくか。

キャラバンは真珠の孔に一つ一つ糸を通す針のようなものだと言っていて下さった人がいた。これによって真珠の首飾りやじゅうたんができたらずばらしい。

自分ではくたびれたとは思わないのだが身体がついて来てくれない。精神力だけではどうにもならないことを痛感した。食欲がなくなり、食事が苦しかった。食事の時間がまちまちで、なおさらだった。年

令のせいだろう。

街角の反応で印象的だったのは、中高生と中年以上の人々の反応が非常にいいことだ。六〇才以上の男性で激しい拒絶反応を示す人に何度も出会った。ドキッとするとその反応で、そういう人たちこそ一番話をしたいと思う。

本場に聞いているところでは活動家との出会いはすばらしかった。心が通じあうような気がした。ただ、活動家たちが自分の運動に埋没していることが多く気鬱りだった。隊を支配する雰囲気は変化した。

最初一週間位は何となく和やかで表面的なものだった。神戸、大阪辺りで、「何のためのキャラバンか」、「各自がかわる原点は何か」という問いかけをした。「楽しい、楽しいで何故いけないのか」、「という反論も出て重くなるし、雰囲気になった。そんなとき、京都の運動家からキック批判された。「元気がない。朝氣がない」と。そのあと本場に打ち解けあうようになったと思う。

これからのことに関して言えば、トマホークを止めるためにすべての行動をやりたい。その結果として

運動が広がるのであってその逆ではないと思う。今の時代は、たとえ半分の危険性があっても、運動を前にすすめる行動を起こすべきだ。もう一つ、安保体制の中心にすえた闘いをすべきだ。そのことよって、軍事だけでなく食料、くらし全体を変える闘いが見えてくる。

決まった時

「ヤッター!」と思った

黒田 渉くん

■首都圏運動の事務局からキャラバンに参加すると聞いて、なんとか選ばれるかと思ってたんですよ。だから「オマエ、行けよ」と言われた時は「ヤッター」と思いましたね。とにかくキャラバンやってみてみたら、全国の人々と会って良かったし、全国の人々と会って良かったし、うれしかったし、歩いてみてもクタクタになんて思いませんでしたよ。これも一生懸命に事務局の下働き(?)した評価があったのかも知れないですよ。それに多分、運転免許があったせいかな。誰も持っていないんだもの。

全国を巡って、やっぱり首都圏での運動の重要性を感じましたね。全国の地域で聞いている人たちに、いろいろな良い意味での支えになるような努力を今後したいです。トマホークとめなくちゃあ……。

表敬訪問の時は

ただ座っていて……

安藤 優二くん

■大学のサークルでアメリカ帝国

主義についてや、朝鮮、ベトナムの侵略の歴史、人民の闘いなんかを学習したら、現在はエルサルバドルや韓国で米軍は核を使用する可能性があると聞いた。それに自分はアルバイト中だから、時間もあつたし、キャラバンやってみようという事になった。

キャラバンでは本場にいるんなら勉強をしたけど、市長とか、地区労とかへの表敬訪問とか申し入れはつまんなかった。ただ座っているだけなんだ。代表は話なんかするけど……。

街の中では中学生・高校生もよく署名してくれたりけど、カンパは四〇才台ぐらいのオバサンたちが多かった。

もちろんキャラバン隊は考え方の違いもそりや多少はある。だからケンカしたことだってある。でも生活面では団結していたよ。やっぱり大学のサークルだけに、視野が狭くなるって感じた。長崎の三菱造船の第三組合や大阪の労働者の闘いを見て、ふれ合っ

て良かった。平凡な学生の時期もあつたけど、今後はこの経験をふみ合にして頑張るつもり。

ウナギの二重弁当

うまかったなあ

山崎 数彦くん

■ボクだけヨコスカです。生まれは福岡県。でも地元ヨコスカ出身のキャラバン隊です。反トマの全国会議に出かけて、吉田さんのキャラバンの呼びかけ聞いていて、なんだか解らないうちに参加が決定になって。自分が歩きとおせる

なんて思いもよらなかったけど、終ってみると度胸がついたような気がします。人前でマイク持つなんて今までは出来ませんでした。中津に「赤トンボの会」ってあるんですよ。そこに参加している魚屋さんは自分の店先に「憲法九条を守ろう」とカンパンを出しているんです。全国のどこでも自分の身近から運動をはじめようとする人がたくさんいて、それが伝わってきて、とってもボク自身にとってもよかったです。静岡の原水禁のデモに参加して食べさせてもらったウナギの二段弁当、これがキャラバン中最高のメシですね。35日間毎日出すつもりのはがキはたった三枚。すいません。35枚もらったのに……。

学生として

当然の任務だ

長田 武くん

■韓国で焼身自殺した労働者の言葉に「一日に三度メシを食べれば、生きることで済むか」というのを「世界」で読んで、ショックを受けた。第三世界のこと、戦後の日本

のことを考えはじめました。学生の立場からすれば、三五日間を動くのは当然の任務だと思ってるんです。あたり前ですよ。それより仕事を休んでまでキャラバンに参加している労働者の人は



海外からのメッセージ

6.17ヨコスカへ

海外からのメッセージがヨコスカに寄せられた。全文紹介の非核フリーピン運動の他にも、イギリス・オランダ・アメリカ合衆国・ニュージーランド・フランス・ハワイなどの反核・平和団体、女たちのグループからのメッセージが寄せられた。どのメッセージにも日本でのわたしたちの闘いへの注目ぶりがうかがえる。

日本の友人の皆さんへ
非核フリーピン連合は、米国の核巡航ミサイル・トマホークの配備に反対し集まられたすべての皆さんに心より連帯のあいさつを送ります。

皆さんの全国運動の中でとり組まれたサセボからヨコスカへのキャラバン行進を知って、私たちはフリーピンで大きく盛りあげたボイコット闘争の中で行なわれた民衆の大行進、ラクバヤンを想い出しています。

フリーピン民衆は、このラクバヤンの行進で、アメリカ・マルコス独裁体制の解体を公然と訴えたのです。

フリーピンでは、トマホークの配備に反対する全国的な行進はまだ組まれてはいませんが、核兵器の配備、拡散に反対する声は日増しに高まっています。現在私たちは大衆的な情宣活動を中心としてどういった闘いをおこしていくかの議論を進めています。

わたしたちは、一五〇〇キロのキャラバンを歩き通した

直撃

キャラバン

ヨコスカ 1500km
参加
自治体 27ヶ所
人数 9人

歩いた、見た、会った、考えた、闘った。

すごいと思いますよ。この経験を学生の運動にしっかり持って帰って、反映させたいですね。第三世界の人々とトマホークの関係についても更に考えることが出来ます。全国を巡ってみて、またまた日本の民衆の力は捨てたもんじゃあないって強く自信を持ちました。東京での運動しか知らなかったけれど各地ですごい運動を見て感動もしました。各地の皆さんに一宿一飯の恩義みたいなものも感じましたし、人と人との関係が運動のなかで大切だと学びました。一生かけてもやってゆく決意がみなぎっています、今は……。

日雇い労働者の目で： 被爆二世として：

大戸 克くん

■キャラバンの日を重ねるにつれて決意が尻上りに高まっている感じだ。やったるぞ！という感じ。ただではおかない気持ちになって来ている。最初キャラバンに入ろうと思ったのは二つの動機がある。一つは原爆に親を盗られた被爆二



■6.17ヨコスカへ向かうキャラバンのなかでの大戸くん。たくましく日焼してなんとなく「オヤブン」みたいにに見えるけど、とってもやさしくしかし強じんだ。

世として、もう一つは無党派の者が政治闘争の前面に出る必要があると思ったからだ。

オレは反天皇制の活動をやって来たが、その背後にも親が原爆に殺されたということがあった。

キャラバンでどんなに歩いたって少しもくたびれなかった。日雇いで港湾労働をやっているが、そっちの方がよほどキツイ。

飯の供給は安定していて、腹が空いた思いをしたことはない。日雇いで三日〜四日飯が喰えないことはざらにあるので、これもキャラバン中は恵まれていた。

各地で街頭宣伝して一番感じたのは、大衆はみんな生活が大へんだということだ。大変な生活の中で坦々と生きたい、という感じ。小さな町で情宣していても、キャラバンを排除しようとしてもいいし、無視するわけでもない。だが、かかわれない感じ。安保づけの日常とはそんなものだ。

オレが街頭宣伝するときはどうしても労働者、とりわけ末端の労働者の方に心が向く。中産階級の主婦とかサラリーマンはもう沢山という感じだ。学生は見えないよ

うにしている。

各地の活動家に接したが、彼らの生活も大変だという印象だ。追いつていられないから一生懸命続けている感じがもてた。

隊の中でいろんな冗談が生まれた。「権力をあつと驚かす」という流行り言葉、「古いオルグとお思いでしょうが、古いオルグこそ新しい奴をほしがるもんでございませう」というセリフなど。

キャラバン隊の団結はだんだんと強くなって来た感じ。だが、なかなか一体になれない部分もある。今後のことに関して言えば、隊

の総括をキチンとしたい。報告文集をつくりたいと思う。オレ自身の総括は地域でこそやりたい。その結果は人間の鎖として現われると思う。自分の日雇い労働者、被爆二世としての責任をこめた総括が必要であり、それは基地のゲートにつっこむことではつくせないようなものだ。

二〇〇〇人のひとが ピラを受けとってくれた

布施 全日 進くん

■グループの仲間から「お前しかいないぞ」と言われちゃって……。最初はすごく迷ったけど、よし、やるうと決意して参加しました。

今までは口先だけで核戦争の危機を語っていた感じだったけど、キャラバンを終えてみると、それがすごく実感を持ってきて……現実が解ってきたような気がしています。釜が崎で交流会の最初から酒とキムチで歓迎されて。うれしかったですね。そのあと二〇〇〇人

反核キャラ

- 35日間
- 佐世保〜ヨコスカ
- 86ヶ所で集結
- 3100人が参加
- 申し入れした
- 歩きとおした

位の人が一斉にピラを受けとってくれて……感動しました。ボクはみんなに「反核」じゃなくて「三食のために行動する青年委員会」なんて言われてましたね。ウナギの二段弁当は食いそねたんだけど、沼津の寺のサシミは美味かったですよ。京都の仲間にもホントは毎日報告書を送ることになってたんだけど、手もとにメモばかりたくさん残ってしまっていて、整理が大変ですよ。これからは職場での労働運動を大切にしたいと思っています。これからですよ……。

“普通の人”として

参加して：

立川 さきさん

■京都の議論で、あまり運動なれしていない、普通のひとがキャラバンに参加した方が良いということとで「参加しよう」と思いました。

体が疲れるということはありませんでした。むしろ精神的に疲れることの方がありました。各地の交流会では、もっともっと討論できると思っていましたんですけど、自己紹介で終わってしまうこともあって、もう少し時間が欲しかったですし、なんとなくスケジュールだけこなしているのかなと感じることもありました。それにキャラバンの受け入れ側にもトマホーク阻止への考えや、危機感の持ち方にもずいぶんバラツキがあったと思っています。キャラバン隊の中にもバラツキはあったと、もちろん思ってますけど。トマホーク阻止のスローガンの解釈にだってバラツキはあるんですよ。

もらうものばかり

だった……

野上 啓くん

■キャラバン参加を決めたのが五月七日夜。二〇才の誕生日だった。キャラバンの行く先々で面白い大人たちに会った。カゲキに楽しみながら聞いている人に感動した。自分たちにも自由に好き勝手にやれと応援してくれた。このキャラバンで自分は失ったものは何もない。すべて得たものばかりだ。他の人たちは失うものがあつたかもしれないけど……。

人々に伝えることは決して大衆にコピーすることではないし、人々の自分たちへの反応がわかるようになってきた。今までほとんど運動に参加していなかったら余計に普通の人々の関心や反応に敏感かもしれない。いずれにせよ試行錯誤は必要だと思っている。

キャラバンにはパンツ三枚で参加をした。ご想像どおり洗濯はあまりしなかったから、タイヘンだった。クツは穴があきはじめて雨の日なんかジクジクして……。

いろいろな発見の蓄積をこんどは思いっきり放出してみたい。



く、もっと多くの課題をかかえているのです。フィリピンの経済、政治は一部特権階級とアメリカに握られ、民衆は搾取と剝奪の下、すさまじい貧困を強いられています。さらに政府軍による逮捕、拷問は相続き、多くの無実の人々が公表されることもなく殺されています。私たちはこれらすべては別個の問題ではないと考えます。民衆は何年もの間、巨大な網の中で苦しめられ、とらわれてきたのです。しかし私たちはいつまでも苦しんでいるわけにはいけません。人々は学んだのです。我々を食い物にしとらえている巨大な網とは、外国から複雑に編み組まれたものであり、それはアメリカ帝国主義であることを。民衆は危険を恐れず街頭に立ち公然と悪魔を追い出す闘いははじめました。そして団結し、一致し戦闘的に闘うことではじめて勝つことができると確信したのである。

私たちの団結と闘いの共通のビジョンをさらに深め強めていきたいと思います。民衆を捕え、餌食にしようとするものの爪をはがし、その危険から私たちが解放されるために。

私たちは、核による破壊の中で声をあげるのではなく、世界中の人々が真に自由で正義ある民主的な社会をつくりあげていく中で、団結し共に闘っていくことを願っています。

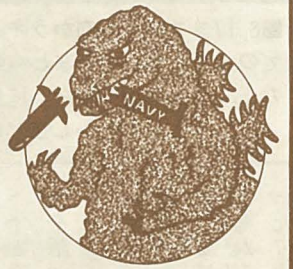
世界の平和運動万歳！
核軍縮を求めるとすべての人々万歳！
平和を愛する日本人万歳！
Mahuhay Kawong Lahat!!
(すべての人民万歳!!)

一九八四年六月
非核フィリピン連合事務局長
エルモ・マナパット

全国の

トマ喰い虫は

うづめく 6・17イン タビユ一編



ゴジラは新種のトマ喰い虫
東京は北部方面に出没します

原潜タニ 6月14日入港

反核・反基地の闘いを

呉・岩佐さん

■反トマホークの運動を契機にして、軍都としての呉の町のあり方を問題にし、反核・反基地の運動を創っていくことを考えています。

7月いっぱいには、トマホーク一本に絞って、街頭での宣伝を繰り返し、その中で呉の町から基地を無くしていくにはどうしたらよいか、という議論を巻き起していこうと思っています。

具体的には、横須賀や京都で行ったようなアンケート調査を7月から8月いっぱい行いたい。その中で呉の市民が、基地や核に対してどのような意識を持っているのか、また生活をしているのかをまず把握して、これからのように反戦反核を創っていくかの方向性を探っていきたい。

北海道でガンバル

小樽・川鮎さん

■署名運動は一応終り、6月20日前後に横路知事宛に手渡しし、話

合いもしたいと思っています。

これからの運動のターゲットは一つ。道内の港にこれまでも第7艦隊がしょっちゅう入って来て、特に小樽には旗艦が入って来て、室蘭にも入って来ています。産業が斜陽なので、そういうものをどうんぞん受け入れてしまう。

小樽では、6月の議会に寄港を認めないという請願を出している。目的としては、非核の証明が出されない限り入港を認めないという、神戸のように実効のある体制に持っていきたいと思っています。

これからは、市議会や道議会に對しての院内の活動だけでなく、どういふふうに入港の反対闘争を創り出していくかが課題です。

多摩更生園から

伊藤さん

■日本が核兵器の最初の犠牲の国であるし、その恐ろしさは、私自身第二次世界大戦の経験者であるし、充分知っております。

私達自治会で主導権を握って運動を繰り上げていくということではないが、各地で開かれる運動に積極的に参加して、できれば日本国中の入港と、さらに世界の入

達とともに反核運動を拡げていきたいと思ひます。今日は少しもそのお役に立てばと思ひ参加しました。

60才くらいに見える伊藤さんは重度の肢体不自由にもかかわらず、同じ更生園の車イスの仲間とともに参加し、デモの先頭で多くの仲間とともに進みましたが、途中で雨が降り出したので、後続のデモ隊に声援を送りつつ、バスで帰途につきました。

非核都市宣言ヨスカから

こぞのさん

■今日の集会は、ものものしい警備の中、緊張して入って来たのですが、中に入ってみると、共に闘う仲間がたくさんいて心強い感じがしました。

6月21日からの配備ということが運動の成果かどうかということが議論されていますが、核の有無という点ではなく、市民の反対の声を無視したということが、横須賀では5万人以上という大きな「力」となったわけですけど、これからは一人一人の声を、新聞などで原潜の入港が報道されなくな

っても汲み上げ、本当に食い止める「力」としていけるのか、難しいことですが、実際に止めたいことが課題だと思ひます。

戦争への道を許さない世田谷の会から

道原さん

■私は主婦ですけど、日常生活の中でやっていかなければならないことがたくさんあります。たとえば子供に対する教育もそうだし、地域でお母さん方と集まって政治の話をしたり、すぐ行動しなければ何も解決しない問題が大きくなっていくにつれて、それを誠実に、また着実にやらなければ、こういう集いに生きてこないと思ひます。

これからは、生活の場に生きてくる運動を進めていきたいと思います。

労働組合員として

国労千葉・三浦さん

■国労千葉の機関ではないのですが、5月6月の反トマ運動に向けて有志で実行委員会を作り、今回参加しました。

九州での闘いを...

福岡・脇さん

■6月23日の第一回をかわきりに、毎月23日の定例デモを福岡市内で行い、反トマホークの運動を盛り上げたいと思っています。

また、原爆の図の展覧会が、7月末から8月にかけて熊本で行われ、つづいて長崎でも行われる予定です。それとオーバードラップし

て、反トマホークの運動を繰り上げたと思ひます。九州では、レーガンや中曽根の思い通りにはさせないぞという意気込みです。

日本原でガンバルぞ

岡山・吉岡さん

■これからは、トマホークや核戦争などの侵略を支える基地や通信施設などの体系を、一つずつあばきだすことによって、それを支えている構造を撃つことをしていかなければいけないと思ひます。

岡山では、日本原の陸上自衛隊の基地に對しての反対闘争を中心に闘っていくなかで、反核・反基地・反トマホークを進めていきたいと思います。

編集後記

■七月九日付の朝日新聞は核トマホーク積載艦船についての米当局筋の発表のニュースを一面トップに掲げました。この間のトマホーク情報は主にこうした、大新聞の報道によって「世の中」に出て来ました。それもニュースソースはほとんど筋からのリーク(情報漏らし)です。米軍当局の情報操作のような気すらしています。しかし、いずれにせよ核トマホークを積んだ船の入港時には即応するわたしたちの行動が不可欠です。そのためにも、コマ切れの運動ではなく継続した反トマの運動のなかでの緊急の行動が不可欠でしょう。今日も反トマホークの署名は事務所に送られてきています。首都圏でも、全国でも議論がま

生協の組合員のみなさんと

あけぼの生協・中村さん

■今まで一般組合員を対象に、横須賀の新倉氏をお招きして学習会などを開いても、残念ながら参加者は少なくて多くはなかった。勉強すればするほど、判れば判るほど恐ろしく、何とかしなくちゃという気持ちになります。一般組合員が皆で日曜日に出てくる(デモ集会に参加)とか、反対の行動にはなかなか結びつかない。「ヨコスカへ」というふうな結びつけるにはギャップがある。今後は、機関紙やニュースに載せて、まずトマホークについて知ってもらうことを中心に活動します。

き起こることが期待されます。

■6・17ヨコスカでの集会と時を同じくしてサセボでも九州の集会が持たれていきます。サセボからの報告によれば、参加した人たちは全体で四つのグループにわかれてディスカッションをしたということです。運動の常識をうちやぶるような意見がどうしても必要だと感じています。それがわたしたちの道を創り出すきっかけのような気がしています。ボクは6・17のヨコスカ集会の中身に不満があります。集会は熱く、多くの人が集まりました。しかしトマホークをどう具体的に止めるかには欠けていたと思ひます。決意だけでなくこの「手」でとめる方法を考えたいのです。(遠藤)